The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「文化」の解読(18) : 神話的なものとその解体　はしがき
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2018, 2017
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69970
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

はしがき

ここに刊行するのは、「言語文化共同研究プロジェクト 2017」の一環として、「〈文化〉の解読（18）－神話的なものとその解体－」という名称の下、合計 5 名によって行なわれた共同研究の成果報告書である。メンバーのうち、3 名は大阪大学大学院言語文化研究科に所属する教員、1 名は同志社大学グローバル地域文化学部に所属する教員であり、1 名は大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程に在籍している。

「〈文化〉の解読」をメインテーマとする共同研究プロジェクトは 2000 年に発足した。過去のサブテーマは以下のとおりである。「文化の意味作用について」（2000 年度）、「〈文化空間〉の政治学」（2001 年度）、「文化の政治性／政治の文化性」（2002 年度）、「文化批判の機能をめぐって」（2003 年度）、「文化生産の諸相」（2004 年度）、「文化受容のダイナミクス」（2005 年度）、「システムとしての文化」（2006 年度）、「想像力としての文化」（2007 年度）、「文化とアイデンティティ」（2008 年度）、「文化と身体」（2009 年度）、「文化とトポス」（2010 年度）、「文化と歴史／物語」（2011 年度）、「文化とコミュニティ」（2012 年度）、「文化と公共性」（2013 年度）、「文化と翻訳」（2014 年度）、「文化と権力」（2015 年度）、「移動と衝突の文化現象」（2016 年度）。18 年目となる 2017 年度は、「神話的なものとその解体」というテーマを掲げて、本プロジェクトを遂行した。

収録した 5 本の論文の内容は、以下のとおりである。アウマン論文は、『荘子』の「内篇」をとりあげ、形式・内容に関するさまざまな言説から、「内編」が本のなかの本ともいえる特別な地位を占めていることを論証している。津田論文は、17 世紀末から 18 世紀中頃までのハレ大学の学問状況を分析し、そこから学問史における人間学的転回が生じてきた過程を考察している。李論文は、『新しき土』と『支那の夜』というふたつの映画の女性像の分析を通して、オリエンタリズムと日本的オリエンタリズムの特徴を探っている。山本論文は、トーマス・マンの小説『ヴァイマルのロッテ』の映画化を例に、東ドイツにおける文学作品の映画化の特質を浮かびあがらせようとしている。阿部論文は、2017 年に実施されたオポレ市の拡大に伴うポーランド語とドイツ語による二言語地名標識撤廃について分析し、同年に実施された「オポレ市政 800 周年」記念行事と「祖ポーランド神話」について検討している。

本冊子が文化研究へのささやかな寄与となれば幸いである。

2018 年 4 月

執筆者一同